

町長メッセージ 「町民の皆様へ」 ～安心・安全のまちづくりを目指して～

私が町長に就任した平成20年度は、平成18年度から続く赤字決算であり厳しいスタートでありましたが、集中改革プランに基づき職員の見直しや起債借り入れの抑制などを図り、平成22年度決算で黒字化を達成することができました。

また、このような予算のなかで「安心・安全のまちづくり」の公約どおり、ハード面では湯浅小学校・湯浅中学校の建て替えや、町内全ての義務教育施設の耐震化などを実施しました。ソフト面では小学校入学から中学校卒業までの子ども医療費の無料化や、若者の定住促進のための住宅建設等の補助制度なども創設しました。また、来年度に実施される和歌山国体に向けて郡民体育館や、なぎの里球場などのリニューアル化なども実施することができました。

しかし、平成25年度において、開発公社清算による土地の買戻し費用や、湯浅広川消防組合庁舎建設による負担金など、一時的な歳出が必要となり今回の決算報告のとおり赤字決算となりました。

このことを想定して、町長始め特別職や全職員の給与カット、また職員採用を抑制するなど、様々な歳出の削減に努めてまいりましたが、報告のとおりとなりました。これからも財政健全化に向け、可能な限りの歳入の確保、歳出の削減に取り組み早急に黒字化

計にして参りたく、引き続き町民の皆様方におかれましてご理解とご協力をお願いいたします。

さて、湯浅町は今年の4月、人口減少により過疎地域に指定されました。

「過疎」というと、マイナスイメージにとらわれがちですが、いまや全国の約半数近くの自治体が過疎地域に指定されています。

また、過疎地域に指定されることにより、以前は受けることができなかった補助金や交付金、起債なども活用できるというメリットもあります。

2040年までに全国自治体の約半数が消滅するとも言われており、国は「地方創生」をテーマに人口減少対策や地域の再生に向け本腰を入れ始めました。

私たちの町は、地方の小さい町ながらも、古くから栄えた歴史や伝統、醤油の発祥地としての食文化など、まだまだ多くの自慢できるものが残っています。

「過疎地域の指定」や「地方創生」などを好機と捉えて、お金が無いなかで、多くの皆様のご意見を頂きながら、知恵を絞る熱意を持って、まちおこしを図っていきたくと考えています。

役場の跡地を含めた湯浅駅前開発や伝建地区への駐車場や休憩所の整備等も「安心・安全のまちづくり」の観点で取り組んで参りたいと思いますので、町民の皆様と協力をお願いします。

「プラチナ未来人財育成塾@会津」に参加しました！

湯浅中学校3年生 山口夢さんが和歌山県内中学校において生徒会活動を行っている中学生が集い議論する「中学生熟議」での活躍が認められ、和歌山県の代表生徒の一人として福島県で行われた「プラチナ未来人財育成塾@会津」に参加しました。

プラチナ未来人財育成塾@会津は、子供達の豊かな感性、想像力、探究心を大きく育むとともに、多くの友人との出会いをとおり、自分の考えを他者に伝える手段や他者を敬う心、さらには協調して課題解決を図ることを学ぶことによって、多様な発想と革新の意識を持って新たな時代を切り開き、力強く生き抜く人財を育てることを目的としています。



<感想>

研修会ではたくさんの方が講師としてお話をしてくれました。私が印象的だったのは小泉進次郎さんの講義です。会場ではみんなに問いかけてくれ、自分の中学生だった頃の話語ってくれました。

初めはたくさん知らない子がいて不安なことがありました。けれど、みんな仲良くしてくれました。他県の子たちと話すことも多くて、県によっての方言も違いました。いろんな地域の文化や歴史を知っておくことが大事で、機会があればたくさん自分の県や外国に行ってみたいと思いました。

友達やお世話をしてくださった人がいるから自分は今、楽しくできているのだと思うので今回、友達になれた子とこれから先もっともっと仲良くしていこうと思いました。今回の体験を中学校に戻って伝えていきたいと思っています。

